

# 令和6年度 社会福祉法人ポレポレ 事業活動報告書

## 法人のまとめ

令和6年度の法人全体の事業活動は次のように進められました。

### 1 ポレポレハウスの新築移転計画を下記のように進めた。

- ① 土地の購入完了 と 造成を開始  
土地購入と 造成費用
- ② 愛知県の社会福祉施設等施設整備費補助金が採択され、国の審議に回った。
- ③ 施設の構想がまとまってきた  
森を挟んで2つのエリア全体を一体として「コミュニティーガーデン 四季の里」とする  
第1エリア（仮称 桜の里）は、  
生活介護事業所ハーモニーと 共同生活援助事業所なしの木ームと短期入所事業所チャレンジホームがある（ 障害者が働いている 四季の木々のある喫茶店がある ハーモニーマルシェが行われている）  
第2エリア（仮称 あじさいの里）は、  
就労継続支援B型事業所ポレポレハウスと 生活介護事業所ユーライズの多機能型事業所とする（ 障害者が働いている お店にお客様が来てる コーヒーを飲んだりおしゃべりしてる人がいる 子供が庭で遊んでる お年寄りが健康体操をしている ボランティアさんが集まって楽しんでいる お兄さんやお姉さんが勉強している 楽器を吹いてる人がいる 炊き出しかまどがある など 誰もが使ってくれるごちゃまぜの里にする）
- ④ 日進市議会議員の全会派の議員の方々には施設建設について報告を行った。
- ⑤ 建設費の高騰が工事費の増額を生むこととなった
  - 当初の建設工事費計画の施設建設費予算  
1億5972万円（設計管理料含む）  
別途 備品費（1000万円～1500万円予定）
  - 資材高騰による施設建設費総額見込み  
1億8049万円（設計管理料含む）  
別途備品費（1000万円～1500万円予定）
- ⑥ 3000万円以上が資金不足となり、寄付活動が必要となった。
- ⑦ 就労継続支援B型事業所の移転をめざし、令和7年4月より事業所の営業を「月曜から金曜日」を「火曜日から土曜日」に変更し、地域と一層共生できる施設を目指すこととなった。

### 2 事業所の支援の充実

- ① 就労継続支援B型事業所は、売上額をアップさせ、平均工賃を2万円台とし、報酬単価を上げる努力をした。一方 利用者の主体性を重視した支援の内容づくりが課題として

見えてきており、真の共生に向けての、法人全体の支援課題でもあるとの課題が見えた。

- ② 生活介護事業所ハーモニーが、市内で受け入れ施設が見つからない強度行動障害者の受け入れをするために、別棟を建てて環境整備をし、受け入れることとなった。

他の利用者との関係や職員の配置等でまず1日の受け入れしか援助はできていないものの、強度行動障害者への受け入れは、意義のあることとなっている。

- ③ 共同生活援助事業所なしの木ホームは、親のニーズに応じて、土曜日・日曜日の開所に踏み切った。まず、6人中3名が終日の自立生活に入った。3人の今後の土・日の暮らしを豊かにすることは、すべての障害者の親の希望でもあるとの認識を持ち取り組みに入った。

職員配置が今一つ完璧とは言えないが、管理者とサービス管理責任者が他事業所との兼務ではなくなったことで、入居者の本格的自立生活への支援に向かうこととなった。

又、国からの方向として、地域とのつながりを義務付けられることとなり、災害時等に街の皆さんとつながる必要があるため、折り戸区長に来所を願い、ホームで懇談会を行った。継続が課題となった。

### 3 5年後・10年後の継続に向けた組織体制づくりを目指した

- ① 9月に生活介護事業所ハーモニーに常勤希望の中途採用者2名を迎え、うち1名を令和7年度より常勤職員として登用することにした。
- ② 常勤職員の退職者がゼロであったことと、育短の職員が2名通常勤務に復帰したため、各事業所を担う職員の組織体制が昨年より安定した。
- ③ 常勤職員の継続で、事業所を担う職員のキャリアアップを可能にし、4人が昇格し、法人全体の組織体制が強化された。
- ④ 将来の継続を視点として、施設内理事を4人から5人にすることができた。
- ⑤ 役割分担をより明確にし、主体的に法人運営に係れる運営体制に改善した。
- ⑥ 放課後等デイサービス「デイサービスポレポレ」を事業閉鎖し、職員を2つの事業所に分散し、体制を整えたが、非常勤職員の退職で職員不足が生まれている。職員不足は継続している

### 4 6つの委員会活動で分野別課題の充実を目指した

- ① 施設長・事務局長・次長・管理者を中心に常勤職員が各委員会に入り、課題別の討議と推進を進めた
- ② 各委員会に常勤職員を配置することで、主体的に障害福祉の仕事に取り組む職員の育成を目指し、同時に支援の充実に向けた組織づくりに努力した
- ③ 各委員会の内容

虐待防止・身体拘束適正委員会	地域連携委員会
感染予防対策委員会	ポレポレまつり委員会
BCP 対策委員会	研修委員会
キャリアアップ・人材育成向上委員会	広報委員会

### 5 相談支援事業所「Refine：りふぁいん」が事業を開始した。

- ① 当面は、ポレポレの障害者の相談から始まった
- ② 基幹相談支援センターとの連携で「Refine：りふあいん」との契約者が決まってきて、具体的な活動に入った。
- ③ 困難事案や、個別の支援の方向を敏速にかつより当事者の利益に資する支援に向けて動く基盤を整えることとなった。

## 6 職員の生活向上に向けた取り組み

- ① 一時金を 3. 7ヶ月から4ヶ月にアップして支給
- ② 障害福祉職員の賃金水準が明らかになり、ポレポレの現在の位置が明確になる。  
「障害福祉職員の平均給与：(額面) で32万7720円」と厚生労働省が発表(令和6年度の10月調査)  
この基準で計算したポレポレの令和6年度の平均給与(額面)は次の結果となった
  - 夏の一時金1. 7か月での算出では 平均給与：(額面) で31万5405円  
で 厚生労働省の発表より、12315円 低くなった。
  - 冬の1時金2. 3か月を加えた算出では 平均給与：(額面) で33万3039円で、厚生労働省の発表より5319円 高くなった。
 (ここでいう給与は、税金や保険料がひかれる前の額面で手取りではない：処遇改善加算をとっている事業所対象の調査：月々の基本給、各種手当、一時金などをすべて合計したもの：通勤手当、扶養手当、時間外勤務手当、深夜手当などは含まない：一時金は、4月から9月に支給された総額の6分の1が上乗せされている)

## 7 経営の危機が深刻となった。

令和5年度に比べて、原資に占める人件費割合が高くなり、昨年68パーセントから令和6年度には80パーセントに近づくこととなった、その要因を分析した

- ① 原資が大幅な減少となった  
生活介護事業所ハーモニーでは、「基本報酬の時間刻み導入」で報酬単価が減少した。加え「1日利用者平均人数」が開所以来最低になった。(今後の見通しはある)
- ② 一時金の増額をした  
職員の生活水準の向上と人材確保をするためとして 年間3. 8ヶ月を 4ヶ月にした

	夏	冬	臨時 管理者以下
令和 5年度	1. 5	2. 3	0. 2
令和 6年度	1. 7	2. 3	-

- ③ 5年後・10年後の継続に向けた取り組みとして、キャリアアップを重視し、2人を昇格したことによる 人件費と資格手当の増額があった。
- ④ 非常勤職員からの2名の常勤職員登用による人件費のアップがされた
- ⑤ 委員会の会議とポレポレ祭りの会議を業務終了後に行ったことにより、残業代が大幅に増えた

(今後の見通しと対策を論議している)

- ① 経営の危機を強くとらえ、原資に対して人件費割合を70パーセントにすることを目標に、今年度経営会議を置き、事業運営を審議し、5年・10年後の継続と短期の事業についての危機感を持って具体的な改善に取り組むこととした
- ② 職員とも経営危機を共有し、理解と合意をもって事業運営にあたる
- ③ 今後の厳しい社会情勢のもと、定期的に税理士のご指導をうけ、5年後・10年後の法人の継続に向けて、論議を進める

## 8 地域連携

- ① 地域とのつながりを広げた「第3回 ポレポレまつり」

11月4日(土)に開催 昨年より駐車場を地域の方々にお借りするのが広がりを見せた。ステージにおける利用者の文化発表が今後につながることを期待された。

- ② NPO 法人なかまの家の 「第18回 とも学びセミナー・まちを学校に：おもしろ体験子屋」

コロナ渦を乗り越えて、毎年継続している。これは、ボランティアの活動になっているためになかなか社会福祉法人ポレポレの職員には浸透しづらい状況が見られるものの、第1回開催時に掲げた「みんなの笑顔が見たいから・・・障害者も高齢者も子どもも大人も みんながつながる優しい街づくりに貢献したい」のスローガンが、今回の社会福祉法人のポレポレハウスの新施設のコンセプト「地域にごちゃませの施設を作りたい」にも深くつながってきている。この活動の意義を再確認し、第19回の開催を、NPO 法人と社会福祉法人の連携で成功させたい。

- ③ ハーモニーマルシェ

生活介護事業所ハーモニーが事業所単体のマルシェを年2回行った。

広い庭に地域の方々にお越しいただいて 楽しい企画が行われている。継続しているため、来場者も増えてきている。この取り組みは、地域の方々と顔を突き合わせたつながりができるため、職員自身が明るい気持ちになるという 楽しいものにもなっている。

又、令和8年に建設が完了する多機能型事業所ポレポレハウスと現在の生活介護事業所ハーモニー及び共同生活援助事業所なしの木ホームを「コミュニティーガーデン四季の里」として一体化する構想を先取りして実践しているものとして評価したい。

- ④ ポレポレハンズ(親の後援会)

親同士の交流を目的として活動を進めているポレポレハンズは、結成3年を経て、主体的活動が定着を始めている。特に、「ハンズカフェ」には、参加者が増えて、親の交流の場となり、その中で明らかになった悩みに答えようとの企画もされ始めた。

## 1 利用者状況（定員20名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
開所日数	23	19	23	22	18	24	22	23	23	17	23	20	252
延利用者数	439	395	392	437	337	398	410	349	372	333	362	389	4613
1日平均利用者数	19.1	20.7	17.0	19.9	18.7	16.6	18.6	15.2	16.2	19.5	15.7	19.5	18.3

登録利用者数 3月現在（23名）

障がい程度区分 区分1（0人） 区分2（1人） 区分3（7人）  
区分4（5人） 区分5（2人） 区分6（1人）  
区分判定なし（4人）

## 2 活動報告

- 1 地域交流を深めた結果、食品部門の商品の委託販売がイオングループであるマックスバリュ一米野木店の販売と2025年度開設予定の道の駅での販売が決定する。
- 2 工房部門では、個々の作業でできたものを製品化できるように支援員が工夫して、販売ができていて、中でも携帯ストラップは人気です。
- 3 利用者の想いに寄り添い、利用者の希望をできるだけ実現できるように支援をするという基本に立ち、全職員で支援内容を共有している。
- 4 市内の工場の内職を作業の仕事として開拓し、工房部門の収益アップに繋げるようにした。
- 5 利用者研修として、毎週金曜日の午後に利用者や職員とのコミュニケーション等を図る目的で、いろいろな講座や誕生日会などのレクリエーションを実施している。
- 6 目標工賃達成するために、特別工賃を支給して目標工賃達成する。

## 3 成果

- 1 登録者数が23名になり、平均利用者数が伸びてきている。
- 2 惣菜班の利用者が作業に慣れてきたことで、作業の段取りがよくなり余裕ができてきた。
- 3 工房班の作業の商品化を目指して取り組んでおり、少しずつではあるが形になってきている。
- 4 利用者の美味しいものを作ろうという食への責任感が育ち始めている。
- 5 工房班では、作業時間と休憩時間をスケジュール化し、落ち着いて作業に取り組んできている。
- 6 目標工賃達成することで基本報酬の単位数を上げることが出来た。

## 4 今後の課題

- 1 利用者の体調不良等で、欠席者が有り20名定員がなかなか達成されない。契約者数を増やす必要有りがある。

- 2 休暇の時の職員配置に困難が生じ、継続をするには、人配置の必要が見えてきた。体調不良や家庭の事情等で職員が有給休暇を取得した際、休暇日の代替え職員の配置が難しく、職員の負担感が大きかったので、安心して勤められる職場環境を作る必要がある。
- 3 支援の方法で、一人一人の人権を尊重するという意思決定の支援が求められており、個々の生きづらさに対し、支援力を結集し、チームで共有を深めていく必要がある。
- 4 販売に行きたいと希望する利用者の気持ちを大切に、販売の機会ができるだけ希望者に設けられるようにし、地域の方々と障害のある方の一人一人を知っていただき、土曜日営業にすることで、地域のイベントに出店して、自分たちの商品が認められる感動を共に感じていきたい。
- 5 区分認定の高い利用者が多いことに鑑み、支援を更に充実するための、多機能型事業所を来年度開所するにあたり支援員の確保が不可欠となる。
- 6 移転計画が実現するため資金を確保するためにも、収入の財源である1日定員20名を就労面、生活面で支援できる人的な力を高めることが求められている。
- 7 利用者の工賃単価アップをして仕事に対する意識を高めていく。

## 生活介護事業 ハーモニー

### 1. 利用者状況 (定員 20名)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数		22	22	21	23	18	21	23	20	21	20	20	23	253
延利用者数	区分4	46	35	35	51	35	43	45	31	26	26	26	25	424
	区分5	150	142	140	148	117	142	157	135	137	128	130	146	1672
	区分6	158	153	146	168	124	151	165	146	146	133	144	151	1785
	総数	354	330	321	367	276	336	367	312	309	287	300	322	3881
1日平均利用者数		16	15	15.2	15.9	15.3	16	16	15.6	14.7	14.3	15	14	15.3

- ・4月 新規契約者 2名
- ・11月より3月まで休み 自宅でできる作業を提示し毎週金曜日に家庭訪問  
※令和7年4月より復帰
- ・令和7年3月31日現在 登録者数 18名 (区分4:3名、区分5:7名、区分6:8名)
- ・平均障害支援区分 5.3
- ・区分5・6利用者割合 84%
- ・区分6利用者割合 45%
- ・男性利用者 9名 女性利用者 9名
- ・1日平均利用者 15.3名

## 障害種別人数

障害種別	精神障害	知的障害 (自閉症含む)	身体障害	(若年性認知 症)	合計
利用者(人)	1	16	1	0	18

## 2. 活動報告

### (1) 利用者本位の支援

①通所できなくなった利用者に対して訪問支援を行った。

- ・体調を崩したのをきっかけに休みがちになり、11月より通所できなくなった利用者が1名出てしまう。週に1度担当職員が自宅を訪問し、本人や保護者と懇談を重ねる。訪問を繰り返すうちに家でハーモニーと同じ作業をしたいという要望が出るようになり、毎週金曜日に作業を取りに来てもらい、翌週に作業を届けてくれるようになる。体の不調がメンタルにも影響を及ぼし困惑していた。保護者と電話でのやり取りを繰り返しつつ本人のやりたいという気持ちを見逃さず本人のペースに寄り添い支援を継続し、6か月後(令和7年4月)には毎日通えるようになった。

②強度行動障害がある方への個別支援が必要になり、別棟を設置した。

- ・他利用者に手が出てしまうようになったため、なしの木ホームの1室を借りて日中活動支援を実施した。強度行動障害のある方への支援は、個人に合わせた個別支援計画に基づき、安全で安定した環境を提供し、本人の行動を理解し、適切な行動を促すことが重要であるため、他利用者の影響が及ばないなしの木ホームという環境での支援は、『本人の安心』を得るためにはとても効果的だった。3月末には別棟が建ち、4月から使用可能になると、別棟での活動ではあるものの、他利用者のいるハーモニーの生活に戻っている。支援内容も、本人の苦手なことではなく、集中できるものを見つけたいと、試行錯誤し、『みんなのカフェ=みんカフェ』にたどり着いた。注文に合わせてドリップ珈琲を入れる作業。聴覚過敏で他者との関わりも苦手領域だったが、安心できる職員と一緒に段取りもよく集中できている。現状は常時マンツーマンの支援で様子を見てはいるが、少しずつ気持ちも安定してきており、以前よりも言葉も増えてきている。保護者も大変喜んでおられ、職員とのコミュニケーションも良好である。

③意思決定支援

各班で1か月働いたご褒美として支給されたお給料を使って、楽しい外出企画を計画し、お小遣いの範囲で自分で選んで購入するという体験を行っている。

愛知牧場 東山動植物園 水族館 ドライブ等

## (2) 保護者との連携

- ・4月 保護者会の実施。ハーモニー令和6年度事業報告と令和7年度事業計画についての説明を行った。
- ・災害時引き取り訓練の実施。
- ・お盆前の大掃除。

## (3) 利用者の安全確保

- ・月に1回 健康診断
- ・月に1回 避難訓練
- ・健康づくりとしてのラジオ体操&ウォーキング
- ・『四季の里』環境整備

## (4) 授産製品の販売

※積極的に地域に出向き授産製品の周知&販売活動を実施した。

- ・カフェテラス tree&tree 喫茶営業
- ・7月3月と年2回、ハーモニーマルシェ、11月にはポレポレ祭りにて販売を行う。
- ・5月9月1月の年3回、端っこマルシェ出店。
- ・にぎわい交流館 販売 第4水曜日 月1回販売
- ・2月3月福祉の店出店。
- ・9月夢まつり
- ・NPO法人なかまの家『土曜ひろば』の活動とコラボ。毎月第2土曜日に施設を開場している。
- ・『四季の里』有償ボランティアさんの協力により、新鮮野菜の販売ができた。
- ・冬季、ハーモニーカタログ販売実施。

## (5) 地域との連携

- ・撞木団地や東山団地を中心にハーモニーマルシェやポレポレまつりのチラシを利用者さんと日中活動の中で配布した。「いつも頑張っているね」と声をかけられるようになっている。
- ・喫茶のお客さまもなじみの方が増えてきている。小さいお子様連れのグループの方が庭を気に入ってくれ、遊んで行かれることも増えてきた。祝日に若いご夫婦やお子さん連れのお客さまなど新しいお客さまも来てくださるようになっている。
- ・地域のグループの方から「マルシェに参加できますか？」と声がかかっている。

## 3. 成果

### ①別棟設置と強度行動障害の方の受け入れ

- ②毎月 500 円の工賃支給・年に 1 回ボーナス支給（1000 円）とそれに伴う生活体験の実施
- ③職員体制の補充 男性 2 名（8 時間勤務者）女性 1 名
- ④ 強度行動障害支援者養成研修 資格取得者 2 名  
相談支援専門員 □取得者 2 名  
※利用者の障害特性に向き合い丁寧な支援を行っている。
- ⑤介拓プログラムによるインターン実習を受け入れた。

#### 4. 見えてきた課題

- ①定員の確保。
- ②男性職員さらなる雇用。
- ③ハーモニーの建物のメンテナンスが必要となってくる。保護者にも提案する形で進めていきたい。
- ④喫茶の収益を上げ、③に係る費用を捻出する。
- ⑤ハイゼットをリフト付きの乗用車に替える（令和 7 年度補助金申請を出す）。
- ⑥令和 8 年度ポレポレハウスの新築移転や南海トラフ大地震等の有事の時を考えると、ハーモニーマルシェ等イベント開催時だけでなく、職員は日常的に地域の方と仲良くなる必要がある。そして、社会福祉法人ポレポレの理念の理解者を増やし、障害支援に協力して下さるようなボランティアさんを募り、地域の方と協力体制を構築する。

### 共同生活援助事業 なしの木ホーム

#### 1. 利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
開所日数	26	26	25	27	27	27	27	26	24	23	24	26	308	
延利用者数	区分2	49	49	48	54	45	46	53	52	48	46	48	52	590
	区分3	25	22	21	23	24	20	23	26	24	23	24	26	281
	区分4	50	44	49	52	48	46	53	52	48	46	48	52	588
	区分6	26	26	25	27	21	24	27	26	24	23	24	26	299
	総数	150	141	143	156	138	136	156	156	144	138	144	156	1758
平均(人)	5.7	5.4	5.7	5.7	5.1	5.0	5.7	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	5.7	

- ・利用者数：6名（男性3名 女性3名）
- ・1日平均利用人数 5.7人

・現在営業日 月曜日～土曜日（土曜日朝帰宅 月曜日夕方帰所）

※Tさん 発作が日常的に起こるため、毎週の自立帰宅が不安。毎週金曜日に日中活動事業所による送迎で帰宅。土曜日利用がなしとなっている。

## 2. 活動報告

### ① 健康管理の難しさ

- ・高齢化による日々の健康観察の重要性 血圧
- ・利用者自身で健康的な生活を意識できるような支援
- ・通院同行による病状把握を行った。
- ・ここにあった運動を提示、支援を行う。

### ② 9月と3月保護者会を開催

- ・食費・水光熱費・日用品費や家賃について実績を報告
- ・アンケート等により土日営業の必要性を確認（本人/ご家族のニーズ）

### ③ 自分時間の支援

- ・【Tさん】比較的自分で過ごすことができる。コンビニや理髪店にも自分で行かれるが、てんかん発作が時折あり、危険を伴うことが予測されるため、外出時は同行し、安全を見守る支援をしている。
- ・【Mさん】ほぼ自分のルーティーンができています。自分のやりたいことがあり、自室で快適に過ごすことができます。（ただ、自分流が強いため、スムーズな対人関係は築きにくい。周りが本人を認めることで問題なく収まっている。）
- ・【Nさん】ホームで一番重度の方ではあるが、本人の生活習慣がルーティン化されているため、すべて自分時間で過ごせている。自室ではテレビをつけて、iPadを見ている。身辺自立ができています。用事があるとき以外は自室から出てこない。
- ・【Sさん】自室で自分時間を過ごしている。スイーツづくりが好きで、誕生日などのメニュー決めの日など張り切って腕を振るってくれる。職員に手伝ってほしい時は、一緒にやってほしいと伝えられる。小物制作も好き。自分の時間はフルに使っているため、時折、自分時間が押してしまうことがある。
- ・【Kさん】自分時間に何をしたいかわからず、暇があると寝てしまう。以前は張り切って夕食づくりなどを手伝ってくれたが、このところは「疲れた」と言って座っていてもこっくりこっくりしてしまうことが多い。折り紙を折ったり絵をかいたりすることも好きではあるが一人では続かない。散歩も職員と一緒にあれば楽しく出かけられる。
- ・【Aさん】元気はつらつ。帰宅後もほぼ自室で過ごしている。言語でのコミュニケーションは時ではないが、絵をかいたり、一人で黙々と作業をすることが好き。体を動かすことも大好き。時間を持って余すことはせず、何かに取り組んでいる。

### ④ 地域連携推進会議開催

- ・地域での生活を実現するにあたって、必須課題となっていた「地域連携推進会議」を開催した。（利用者2名、保護者2名、職員2名、折戸区の自治会長、折戸区の民生委員1名、計8名で実施。）

なしの木ホームのリビングにお招きし、ホームを見ていただいたり、日常どんな生活をして

いるのかを聞いていただいた。「散歩に行ったりしたときに会ったら、あいさつできるね」など談笑できた。それに加えて、「南海トラフ大地震が来たら怖いね」「どうしよう」という話題も出ると、「民生委員さんからは梨の木小学校に避難することもできるから大丈夫だよ」という声もかけていただき、今後 BCP などの地域連携の課題にも触れることができた。

### 3. 成果

- ・コロナも落ち着き、「一人一人のやりたいこと」を見つめながら、健康に配慮した生活を構築出来てきている。かねてからの課題であった、土日営業も令和7年4月から実現の方向で動いている。
- ・お一人の方は後見人も決まり、今後親亡き後の生活を考えていくことも必須になってきた。
- ・地域連携推進会議の実施により、地域の方になしの木ホームのことを知っていただくことができ、今後の繋がりのおきっかけを作ることができた。

### 4. 見えてきた課題

- ①これまでご家族にゆだねていた医療ケア（通院等）の部分をホームの生活の中に取り入れていく。
- ②「自分時間が上手に使える」＝「生活が豊かになる」と考え上手に自分時間を使えるように支援をする。
- ③生活の中で「働いてお給料をもらう」「自分で必要なときにお給料を使うことができる」「お給料を貯金する」等金銭的管理ができるよう支援を行う。（日常生活自立支援の活用）
- ④「南海トラフ大地震」の対策を本人/ご家族/職員とでしっかりイメージし、有事の時には地域の方と連携できる様常日頃からつながりを持つことが必要である。
- ⑤土日の職員を確保し、休日の暮らしを構築する。

## 併設型短期入所事業 チャレンジホーム

### 1. 利用者状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用日数		18	20	16	18	16	18	20	19	18	13	18	18	212
延べ利用者数	区分3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	区分5	4	4	4	4	2	4	4	4	4	2	4	4	44
	区分6	14	16	12	14	14	14	16	15	14	11	14	14	168
	実人数	4	4	4	4	3	4	4	4	4	3	4	4	4

- ・1日 定員1名
- ・現在登録者12名
- ・定期利用者 4名

※利用者は区分5・6の方。本人の意向というよりご家族意向。

## 2. 活動報告

- ・法人内の日中活動事業所を利用されている方のみ受け入れている。
- ・緊急時のご利用0件。保護者不在対応による定期利用1件（水・木）。宿泊訓練のための定期利用（第1金・第3金・第4金）。

## 3. 成果

- ・法人内の日中活動事業所を利用している方を利用条件にしているため、事業所間の連携、保護者との事前打ち合わせがスムーズにできおり、利用を重ねることにより、自分の居場所を見つけ、落ち着いて過ごすことができるようになる。
- ・なしの木ホームの入所者も事前に情報が分かるため、混乱することなく受け入れができています。

## 4. 見えてきた課題

### ①Hさんのケース（月に1回ご利用）

- ・初回利用時、なかなか玄関から入れず1時間ほど玄関付近を行ったり来たりしながらもやっとホームに入れた。結局、夕食も食わず、お風呂にも入れず、着替えもできずに来た時の服のまま布団の中に入り眠ることになった。朝もなかなか起きられず、お母さまが迎えに来てから起きることになったが、「何もできないことがルーティーンになっては困る」とお母さまがご飯を食べさせ、シャワーを使整って体を洗い、帰って行かれた。
- ・2回目利用時、あたかも1回目とは違った雰囲気であそ。ご飯も食べ、お風呂にも入ることができた。すべての動きは1回目よりもスムーズだった。

※※ショートステイを初めてご利用になる方は、「初めての場所」で「初めての人たち」がいて「初めての経験」をするわけで、不安でない理由がありません。

※※不安を丸ごと受け止めて、「一晩すごせたら○」と職員は思っています。

※※チャレンジホームは「家以外の場所で家族以外の人と過ごし寝る体験をする」ことを目的としています。「○○ができるように支援をする」場所ではなく、どちらかといえば、ご家族がいざというときに、何ができていれば「家以外の場所で家族以外の人と過ごすとき本人が困らないのか」を考える機会にさせていただきたいと考えています。

※※生活習慣が身につけており、自分でやることが分かっておられる方は比較的問題なく過ごせている現状があります。

### ②今年度のHさん

- ・毎月1回定期的にご利用になり、『日中活動の事業所からチャレンジホームに来られて一晩過ごし、翌日の朝お母さまのお迎えで帰る』という体験を続けています。

入室、食事、入浴、就寝などタイムスケジュール的にはご自宅とは違うため、本人的にはまだスムーズではないところがある様ですが、職員の声掛けにより特に問題なく過ごせています。

※チャレンジホームは、ご本人様はもとよりご家族様にも『チャレンジする場』として活用していただければと思っています。

## 放課後等デイサービスえがお (げんき)

### 1. 利用者状況

10名定員

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	22 (18/4)	21 (21/0)	21 (20/1)	23 (14/9)	18 (3/15)	22 (19/3)	22 (21/1)	20 (19/1)	20 (16/4)	20 (18/2)	20 (18/2)	21 (14/7)	250 (201/49)
延べ 利用者数	234 189/45	236 236/0	238 233/5	250 166/84	177 8/169	232 223/9	246 240/6	224 213/11	216 174/42	218 199/19	216 201/15	227 149/78	2714 2391/323
1日 平均数	10	11	11	10	9	10	11	11	10	10	10	10	10

カッコ内 (平日/休日)

#### 【新規利用者】

新一年生 3名 三好特別支援学校1名 香久山小1名 長久手東小1名

#### 【登録人数】 21名

(学年内訳) 高校1年生 1名

小学生6年生1名、5年生2名、4年生4名、

3年生4名、2年生6名、1年生3名

(市内内訳) 日進市: 16名みよし市: 1名 長久手市: 4名

※新規1年生が3名入る。1名が週5日利用。1名が週4日利用1名2日利用。

※平均利用人数は10名。曜日によっては15名受け入れる曜日がある。

※夏休みだけ利用がない利用者に対して夏休みだけ利用日数を増やす利用者もいる。

※どの月も10人前後の欠席者がいる。今期は7月に手足口病がはやりお休みが続いた。

また、7月、8月猛暑日が続いたこともあり体調を崩す利用者が多かった。冬の時期にもインフルエンザや風邪でお休みが多かった。

### 2. 活動報告

- ・4月に新一年生が3名入ってきたが、混乱することなく環境やお友達にもすぐに慣れ、げんきで落ち着いて過ごしている。
- ・6月29日（土）利用者とともにあじさいコンサートに参加し、舞台上がり歌を楽しんだ。
- ・7月15日（月）三事業所合同行事として夏祭りを行い、7名が参加し楽しんだ。
- ・夏休み、庭に大きなプールを2個だして、水遊びを毎日午後から行った。
- ・社会福祉協議会のボランティアサンタを依頼しクリスマス会を行った。
- ・祝日行事で名古屋港水族館に出かけた。
- ・お別れ遠足のお出かけでモリコロパークに出かけた。
- ・外部でのお買い物体験を行う事ができた。
- ・保育士は毎日勤務できる体制がつくれたので、活動に個別療育を取り入れた。はじめは取り組めない利用者もいたが夏休み以降、ほとんどの利用者が利用日に15分ほど個別療育を受けている。
- ・視覚的支援を充実させた。（予定表、配車表の見直しなど）
- ・NPO なかまの家主催のひかりの人々展に工作で取り組んだ作品を出展した。
- ・引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策（定期的な換気、手洗いうがいの徹底、備品等の消毒など）を活動中も意識し徹底して行った。
- ・6月、10月11月に保護者面談を実施する。学校の様子や家庭での過ごし方やげんきでの様子を話し、今ある課題や支援について話をした。
- ・毎月誕生会を行った。

#### <主活動の報告>

工作・・桜の貼り絵、こいのぼり、母の日カード、兜作り、あじさいカタツムリ、父の日カード、傘とてるてる坊主、七夕、ペットボトルけん玉、ビニール傘アート、お月見うさぎ、ストローとん、ハロウィンハット、クリスマスリース、年賀状、思い出アルバムぼなど季節に合わせた工作に取り組んだ。

クッキング・・毎週水曜日にその月に合わせたメニューを提供し、子供たちができる工程を考えおやつを作りした。

音楽活動・・楽器を用意し、子供たちの好きな曲で楽器演奏を楽しんだ。曲に合わせてダンスや体操を行った。

運動活動・・室内では鉄棒、マット、トランポリン、バランスボールなどで身体を動かした。庭では砂遊び、なわとび、鬼ごっこ、ボール遊びなどで身体を動かして活動した。

### 3. 成果

- ・今年度の新一年生は3名だったが、3人とも大きな混乱のなくげんきの環境にすぐに慣れ活動できていた。
- ・週の活動は安定して提供できている。
- ・庭を活用して夏休みプール活動が充実しててきた。
- ・中古だが送迎車両を購入した。
- ・施設に十分な指導訓練室や環境整備が整っているので安全に支援が出来、充実してきている。

- ・隣接している「えがお」と連携をとり送迎等の協力体制が作れた。
- ・閉所したなかよしの職員がげんきに移動し、職員の補充ができた。
- ・救命救急の研修を行った。
- ・ひまわり福祉会主催の研修の参加を職員に周知した。
- ・三事業所連携を取り、職員欠員などの補充に協力しあえた。

#### 4. 見えてきた課題

- ・利用者の障害特性が様々なので、一人一人に合わせた療育内容を充実させると同時に皆が参加できるように集団活動も組み立てる必要がある。
- ・三好特別支援学校、瀬戸つばき支援学校、市内4ヶ所、長久手小と学校により下校時間が異なることから送迎に人手がいる。
- ・職員が欠勤になった時の補充職員の確保が難しい。(現在は出勤でない曜日の職員に声かけをして補っている。)
- ・その日の出勤職員が同じ時間に集まることが日々ないので、申し送りが人づてになり、情報共有が一斉にできないので、今後工夫が必要。
- ・年齢層が低い為、病欠で休むことが多いため、そのことを踏まえた利用者確保が必要になる。
- ・施設が4年目になり、害虫や施設修繕がでてきているので環境整備を管理していく

### 放課後等デイサービスえがお

( 定員 10名 )

#### 1. 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所 日数	22 (17 / 5)	21 (20 / 1)	21 (19 / 2)	23 (14 / 9)	18 (1 / 17)	22 (19 / 3)	23 (22 / 1)	20 (19 / 1)	20 (16 / 4)	20 (18 / 2)	20 (18 / 2)	21 (13 / 8)	251 (196 / 55)
延べ 利用者数	178 (129/49)	175 (170/5)	170 (164/6)	178 (113/65)	144 (7/137)	176 (160/16)	184 (178/6)	163 (155/8)	154 (122/32)	155 (143/12)	150 (137/13)	144 (91/53)	1971 (1569 / 402)
1日 平均 利用者数	8.1 (7.6/9.8)	8.3 (8.5/5.0)	8.1 (8.6/3.0)	7.7 (8.0/7.2)	8.0 (7.0/8.1)	8.0 (8.4/5/3)	8.0 (8.1/6.0)	8.2 (8.2/8.0)	7.7 (7.6/8.0)	7.8 (7.9/6.0)	7.5 (7.6/6.5)	6.9 (7.0/6.6)	7.9 (8.0 / 7.3)

カッコ内 (平日/休日)

【登録者数】 20名 (高校生7名、中学生8名、小学生5名)

昨年度からの変動は、「げんき」からの加入が3名。新規加入者が2名。

## 2. 活動報告

### 利用者状況

多機能型事業所として運営してきた児童発達支援事業「なかよし」が令和5年3月で閉所となったことから、今年度は定員が10名に増えている（6名+なかよし4名）。定員増に合わせて小学部「げんき」から3名が加入、また新規の利用者が2名（高校生）の計5名が加入した。

### 全体での活動

基本的な活動は昨年度同様にクッキングや製作活動などを行った。高校生から小学生までの利用者が在籍し年齢層の幅が広がっていることから、全体で一緒に活動することが難しくなっている。年上の利用者が責任感を持って進められるようになったり年下の子を手伝ってくれたりするなど良い関わりが見られる場面もあるが、個別支援計画に基づき年齢層等に合わせた小グループでの活動を増やしていく必要性がでてきている。

### グループでの活動

自由時間という形で、各々が好きな活動を選択し庭遊びやカードゲームなど楽しめる活動を取り入れ、その中で個別の支援にあたる時間を取り入れていった。身体を動したり、ゲームを通してルールを学ぶなど、楽しみながら課題に取り組む時間も作ることができた。

しかし下校時間により余裕を持って時間を取れなかったり、小グループに分かれることでの職員配置が課題となっている。

## 3. 成果

### 利用者の確保

今年度においては利用者数平均7.9と定員10名に満たない状況であったが、年度末で高等部「デイサービスポレポレ」が閉所となり「えがお」に利用者を統合することから、令和7年度は定員10名の利用者を確保できることが見込まれる。

### 活動環境の整備

5月に指導訓練室のエアコンを購入した。以前は空調が古くなっていたことから夏場冬場は十分でない環境であったが、新しい設備となったことで夏休みの暑さでも安全に過ごすことができるようになった。

また令和7年度に向けて、静養室兼更衣室として個室を整備した。以前「なかよし」で使用していた幼児用トイレスペースを使う対象者がいなくなったためトイレを撤去し、空いたスペースを個室として整備した。

#### 4. 見えてきた課題

##### 環境の整備

利用者の増加が見込まれていることから、10名超の利用者が落ち着いて活動できる環境を整えていく必要がある。活動に使用する机や、利用者のロッカー・靴箱などの配備や、室内の構造化も図って活動しやすい環境を用意する。

以前活動スペースとして使用していた施設横にあるプレハブ小屋を、作業部屋として活動できるよう再度整備していく予定。

##### 職員体制と支援の向上

利用者増から、職員の配置も整えていく必要がある。長期休み等の学校休校日の職員体制や、支援の時間以外でも学校送迎や自宅への送迎など、十分な体制を取れていない状況がでることが想定される。

「デイサービスポレポレ」職員の異動も含め配置は行っていくが、支援体制を強化し働きやすい環境を整えていくため、利用者の追加利用や職員の欠勤時などがあっても、安定して実施できる環境をつくる職員体制が必要になってくる。

### 放課後等デイサービス デイサービスポレポレ (定員 10名)

#### 1. 利用状況(平日/休日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	22 (14/8)	21 (20/1)	21 (20/1)	23 (14/9)	18 (1/17)	21 (20/1)	23 (22/1)	20 (20/0)	20 (16/4)	20 (18/2)	20 (19/1)	21 (12/9)	250 (196/54)
延利用者数	164 (103/61)	151 (144/7)	130 (122/8)	167 (104/63)	108 (10/98)	151 (145/6)	147 (143/4)	137 (137/0)	132 (109/23)	144 (134/10)	137 (133/4)	124 (71/53)	1692 (1355/337)
1日平均利用者数	7.6	7.6	7.4	8.0	8.2	7.4	6.7	6.9	6.6	7.2	6.9	5.6	6.8

【登録人数】17名

【新規利用者】4月から1名（えがおから移籍）新規利用者1名

#### 2. 活動報告

今年度いっぱいまでデイポレが閉所となることに伴い、えがおからの移籍は1名、新規利用が1名と大きな変更はなく、活動を行ってきた。

活動内容も大きな変更はなく、それぞれの能力や特性に合う内容を見つめ直して支援を行ってきた。

## 曜日ごとの活動

各曜日でプログラムを組んで、毎日通う利用者に対しても、色々な経験が出来るようにしてきた。

### 《月曜日》

クッキングを行った。手順書を用いたり、手本を示すことで落ち着いて取り組むことが出来ていた。また、今まで食べたことがないものも作って食べることで食べる事が出来るようになった利用者もいた。

### 《火曜日》

運動を行い、晴れの日には運動公園へ行き、ウォーキングを行った。雨の日には、デイポレ内で体操を行った。体操は、その時の流行りのダンスなども取り入れて行ってきた。

卒業後、ハーモニーへの移行を希望する利用者の様子をハーモニーの職員に見てもらうことも目的として、ハーモニーの庭での活動も行った。

### 《水曜日》

個々の能力に合わせた個別学習を行った。名前の練習やひらがな、カタカナの練習から、時計の読み方やお金の計算など実生活に関わる学習を行ってきた。ポレポレハウスへ移行を考えている利用者に対しては、商品の計算問題などを行った。また、月に1度はクッキングも行ってきた。

### 《木曜日》

作業では、ハーモニーで行う紙すき用の牛乳パックを切る作業を行った。子どもたちの能力に合わせてハサミで切ったり、線を引いたり、手でちぎったりする工程に分けて作業を行った。ハーモニーとも連携をしながら、作業を進めることができてハーモニーへの移行をした際の作業のイメージも共有することが出来た。

### 《金曜日》

季節の創作活動を行ってきた。活動で作った作品は、ハーモニーの喫茶店に飾るなど、色々な方に作品を見てもらう機会も設けることが出来た。

### 《体験行事》

東山動物園や名古屋港水族館など、公共施設を利用する体験を行った。また、スーパーやコンビニに行き、好きなおやつを購入する経験を積んできた。

## 3. 成果

### 障害者施設(ハウス・ハーモニー)との連携

就労を見据えて実習を行う際などに、利用者の様子を事前に伝えるなど情報共有を行ってきた。また、実習の様子を見させてもらったり、デイポレにハウスやハーモニーの職員が様子を見に来るなどの交流も行うことが出来ていた。今後も継続して情報共有を行っていく。

今年度は、ハーモニーとハウスに移行する利用者が3名いたため、移行に伴う情報共有も密に行ってきた。

### 保護者に寄り添った支援

6月に3事業所合同の保護者会を行った。今後の放デイの動向について説明すると共に保護者間の横のつながりを作る機会を提供した。また、送迎時など、些細な悩みなども聞きながら保護者の不安などに寄り添って対応を行う事が出来た。保護者からも気軽に相談をしてもらうことが出来る関係性を築くことが出来た。

## **4. 見えてきた課題**

### 若い職員の確保

職員の若返りを目指していきたい。特に、保育士、児童指導員の求人を出す。学校への働きかけを行っていく。

## **5. その他**

### デイサービスポレポレの廃止

令和7年3月31日をもってデイサービスポレポレは廃止とした。

3月29日には日進市民会館にて、お別れ会を行った。